

岡山県パーソントリップ調査の結果について

県民の移動ニーズと交通体系のミスマッチの解消を図り、県内の公共交通ネットワークを活性化させるため、県民の移動状況を把握することを目的としたパーソントリップ調査を実施し、その結果を取りまとめた。

1 調査概要

(1) 調査日

Aグループ：令和4年10月12日（水）及び10月16日（日）

Bグループ：令和4年10月19日（水）及び10月23日（日）

(2) 調査方法

- ・住民基本台帳から無作為抽出した68,000世帯に対し、調査票を郵送
- ・1世帯につき3人分の調査票を同封し、郵送又はWebでの回答を依頼

(3) 回収票数

- ・27,395人分（無効票を除く）※調査対象は15歳以上

2 分析結果

回答票を集約したデータに拡大処理を行い、県民全体の移動状況の推計・分析を行った。

(1) 移動人数・割合及び総トリップ数（総移動回数）

平日：1,223,507人（77.9%）3,421,437トリップ

休日：925,835人（58.9%）2,718,147トリップ

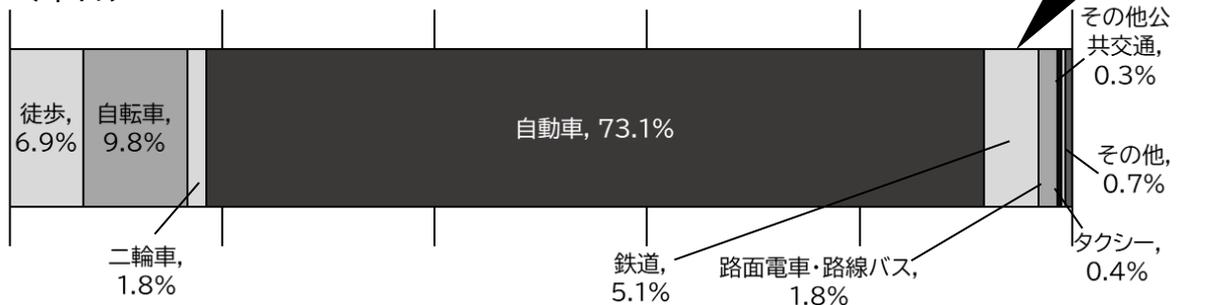
※15歳以上人口1,571,431人に対する推計数値

※トリップとは、ある地点から目的地へ移動する一連の動きのこと

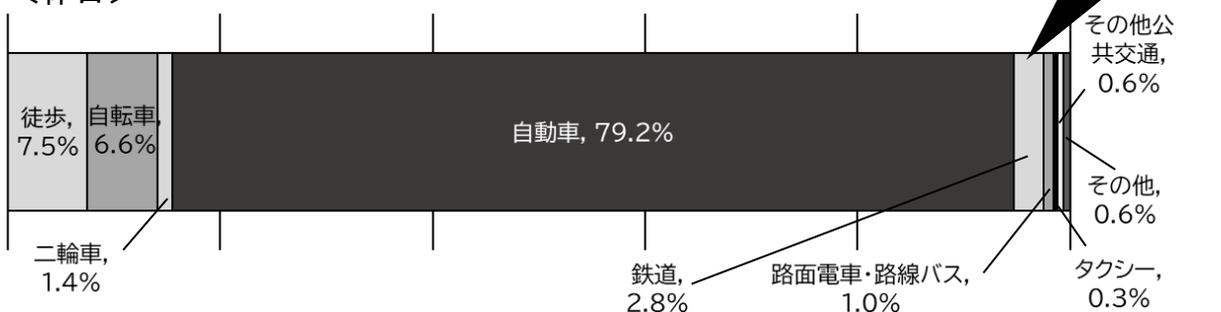
(2) 移動時の代表交通手段

①全体

<平日>



<休日>



②市区町村別

- 岡山市北区は、平日の自動車利用の割合が最も低く、鉄道、路面電車・路線バス、徒歩・自転車の利用の割合が最も高い。
- J R山陽本線沿線の浅口市、和気町は、平日の鉄道利用の割合が、岡山市北区に次いで高い。
- 赤磐市は、平日、休日ともに路線バス利用の割合が岡山市北区、中区に次いで高い。
- 休日については、調査日の大規模イベントの有無が利用に影響した可能性がある。(例：10/16 備前焼まつり)

<平日>

(%)

	自動車	鉄道	路面電車・ 路線バス	徒歩・ 自転車
岡山市北区	56.1	8.7	3.6	28.1
岡山市中区	65.0	5.1	3.6	23.2
岡山市東区	76.7	6.3	1.9	11.9
岡山市南区	74.0	2.5	2.0	18.6
倉敷市	75.4	5.0	1.1	15.5
津山市	84.9	1.2	0.6	10.9
玉野市	81.1	2.1	1.8	12.2
笠岡市	76.0	3.7	1.0	12.8
井原市	81.5	1.6	0.3	12.6
総社市	77.0	5.7	0.4	15.2
高梁市	79.2	3.7	2.0	11.3
新見市	80.8	2.8	0.7	11.4
備前市	80.2	5.2	0.5	8.9
瀬戸内市	82.5	4.7	0.5	8.1
赤磐市	83.9	2.6	2.8	7.8
真庭市	86.3	2.3	1.6	8.0
美作市	89.6	1.1	0.5	5.7
浅口市	76.8	6.5	0.2	12.7
和気町	82.1	6.5	0.8	7.2
早島町	80.8	3.9	0.5	12.4
里庄町	81.5	5.3	0.5	10.4
矢掛町	83.1	2.8	0.6	9.6
新庄村	84.4	1.4	0.0	6.3
鏡野町	92.0	0.5	0.3	4.8
勝央町	93.1	0.4	0.9	3.6
奈義町	91.6	0.0	1.6	6.8
西粟倉村	82.5	3.2	2.1	12.2
久米南町	87.3	3.7	0.0	5.8
美咲町	84.3	1.4	1.3	8.5
吉備中央町	93.3	0.4	2.3	3.2

<休日>

(%)

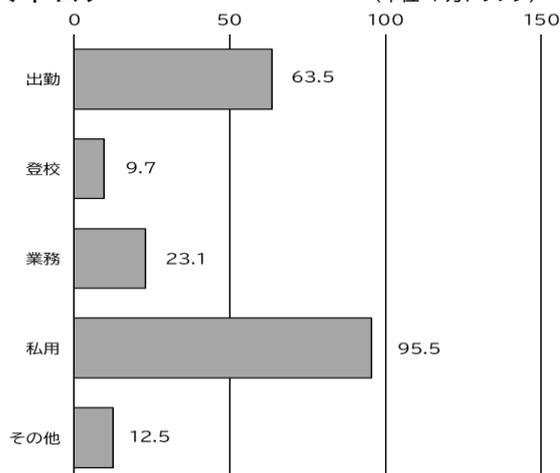
	自動車	鉄道	路面電車・ 路線バス	徒歩・ 自転車
岡山市北区	68.2	4.1	2.5	22.0
岡山市中区	74.7	1.9	1.8	19.3
岡山市東区	84.4	2.9	0.9	9.6
岡山市南区	81.0	1.4	0.9	14.3
倉敷市	81.6	2.8	0.6	13.2
津山市	88.5	0.4	0.2	9.3
玉野市	84.2	1.0	1.2	9.7
笠岡市	83.0	2.5	0.0	11.4
井原市	85.8	1.3	0.1	10.5
総社市	82.2	2.4	0.0	13.3
高梁市	79.7	1.1	0.8	15.4
新見市	83.3	1.3	0.4	12.3
備前市	80.8	4.4	0.1	12.8
瀬戸内市	85.6	1.8	0.3	8.8
赤磐市	84.7	1.2	1.4	9.7
真庭市	87.7	0.2	0.5	9.3
美作市	90.2	1.0	0.5	5.7
浅口市	84.3	1.5	0.3	10.2
和気町	86.8	2.7	0.0	8.8
早島町	84.5	1.5	0.0	12.6
里庄町	87.0	1.7	0.0	8.1
矢掛町	82.2	2.9	0.0	10.6
新庄村	82.3	0.0	0.0	4.6
鏡野町	91.2	0.0	0.0	6.0
勝央町	92.2	0.0	0.0	5.2
奈義町	89.3	0.0	0.0	10.7
西粟倉村	98.4	1.6	0.0	0.0
久米南町	89.7	1.2	0.0	8.1
美咲町	88.6	0.3	0.1	8.4
吉備中央町	85.2	0.0	0.0	10.7

(3) 移動の目的

①目的別の総トリップ数（帰宅を除く）

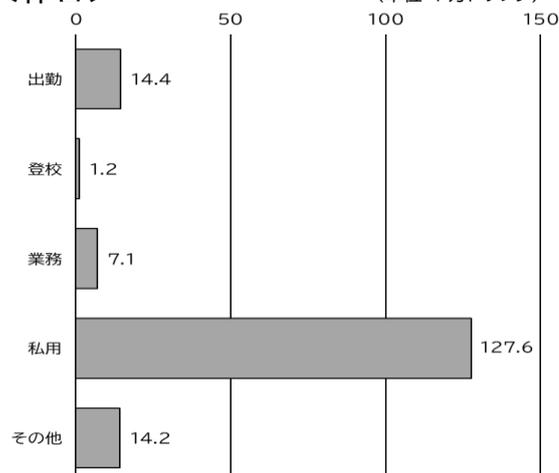
<平日>

(単位:1万トリップ)



<休日>

(単位:1万トリップ)



②目的別の移動手手段構成比

- 平日、休日とも、登校目的では鉄道利用の割合が高いが、それ以外の目的では自動車利用が7～8割を占めている。

<平日>

	自動車	鉄道	路面電車・ 路線バス	二輪車	徒歩・ 自転車	その他・ 不明
出勤	75.2	5.9	2	2.4	13.9	0.6
登校	11.6	39.5	7.7	1.0	39.7	0.5
業務	84.7	1.7	0.2	1.9	9.1	2.4
私用	78.3	1.5	1.2	1.3	16.3	1.4
その他	71.4	1.2	1.1	1.3	20.1	4.9

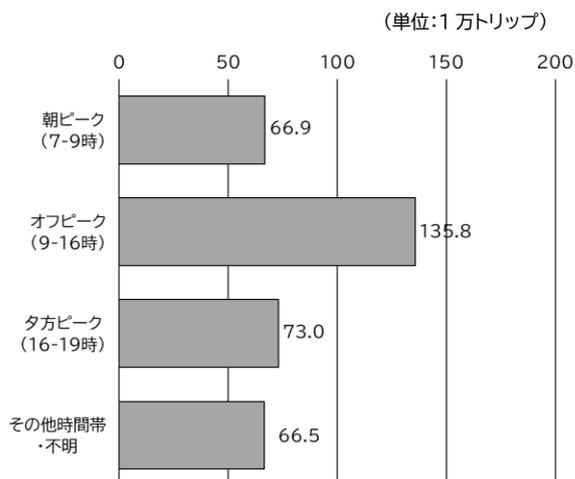
<休日>

	自動車	鉄道	路面電車・ 路線バス	二輪車	徒歩・ 自転車	その他・ 不明
出勤	74.5	4.6	1.4	2.6	16.3	0.6
登校	23.7	37.5	2.7	0.0	36.1	0.0
業務	74.8	2.1	0.9	3.0	16.3	2.9
私用	82.4	2.0	1.0	1.1	12.2	1.3
その他	71.1	2.3	1.3	1.2	21.2	2.9

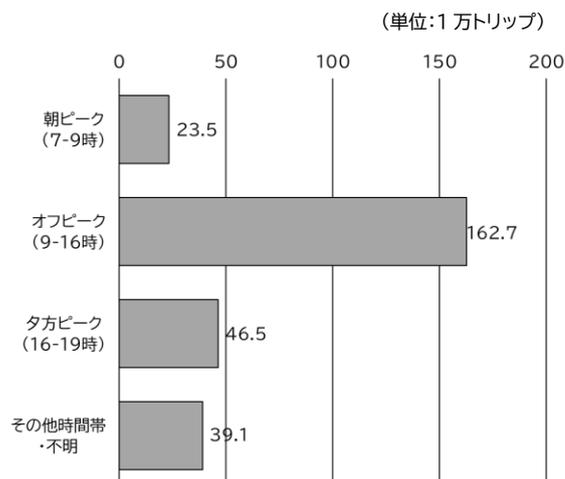
(4) 移動した時間帯

①時間帯別の総トリップ数

<平日>



<休日>



②時間帯別・目的別構成比

- 平日の朝ピーク（7-9時）は、出勤及び登校目的が約7割を占めている。

<平日>

	出勤	登校	業務	私用	帰宅	その他 不明
朝ピーク (7-9時)	59.4	11.0	5.4	16.8	3.9	3.5
オフピーク (9-16時)	6.4	1.0	11.3	44.8	31.4	5.1
夕方ピーク (16-19時)	1.3	0.1	3.2	23.0	69.6	2.8
その他時間帯・不明	21.1	1.6	2.6	9.9	63.0	1.8
全体	18.6	2.8	6.7	27.9	40.3	3.7

<休日>

	出勤	登校	業務	私用	帰宅	その他 不明
朝ピーク (7-9時)	24.4	2.8	7.3	44.4	8.6	12.5
オフピーク (9-16時)	2.9	0.2	2.5	57.5	31.5	5.4
夕方ピーク (16-19時)	1.1	0.0	1.2	36.2	58.7	2.8
その他時間帯・不明	8.8	0.3	1.9	17.3	68.5	3.2
全体	5.3	0.4	2.6	47.0	39.5	5.2

(5) 人の動き（流動）

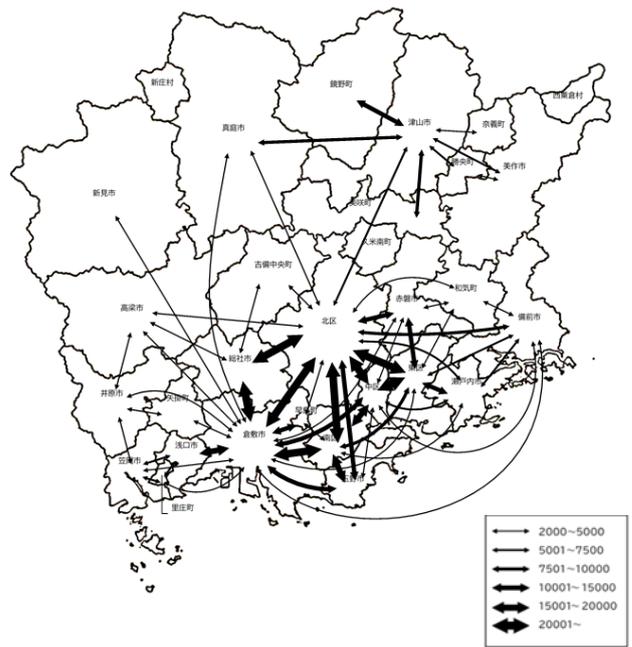
①全体（2,000 トリップ以上の流動）

- ・ 県南部は岡山市北区を中心とした流動となっているが、その他にも倉敷市との流動をはじめ、各市区町間相互の流動が見られる。
- ・ 県北部は津山市に集中する流動となっている。
- ・ 休日は、平日に見られない倉敷市と、備前市・新見市・真庭市との流動が見られる。

<平日>



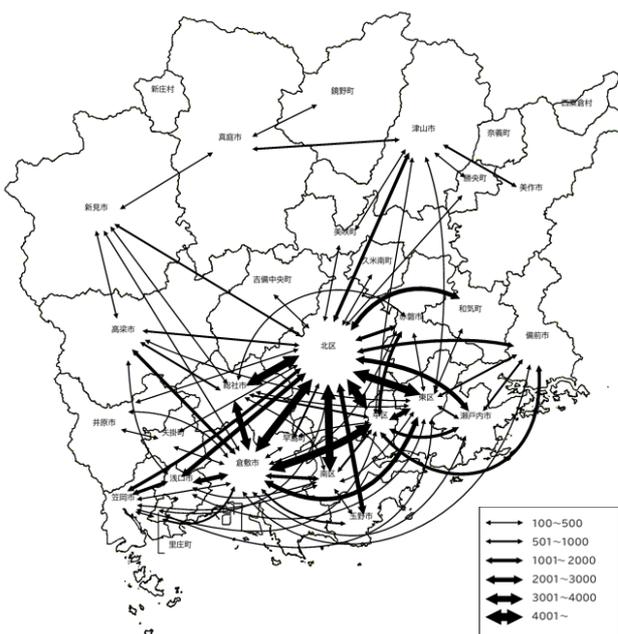
<休日>



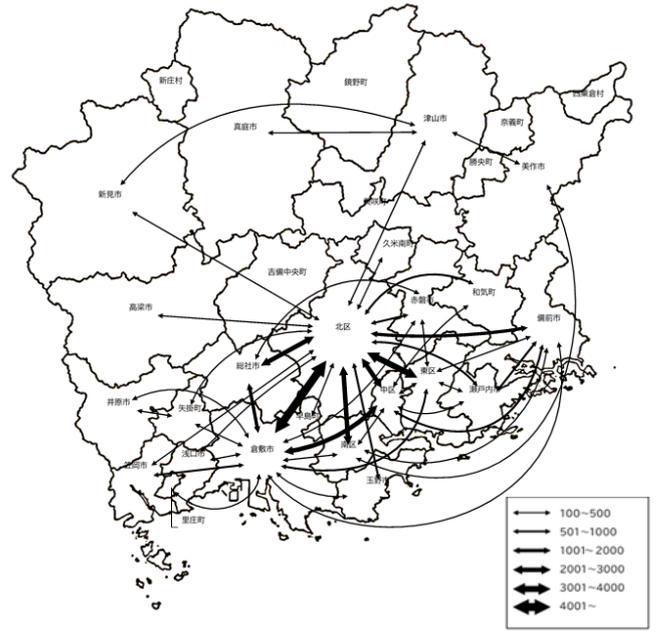
②鉄道（100 トリップ以上の流動）

- ・ 県内の鉄道ネットワークに沿って、多方向・多地域間への流動が見られる。
- ・ 休日は岡山市北区-倉敷市間を除き、平日よりも流動が少なくなっている。

<平日>



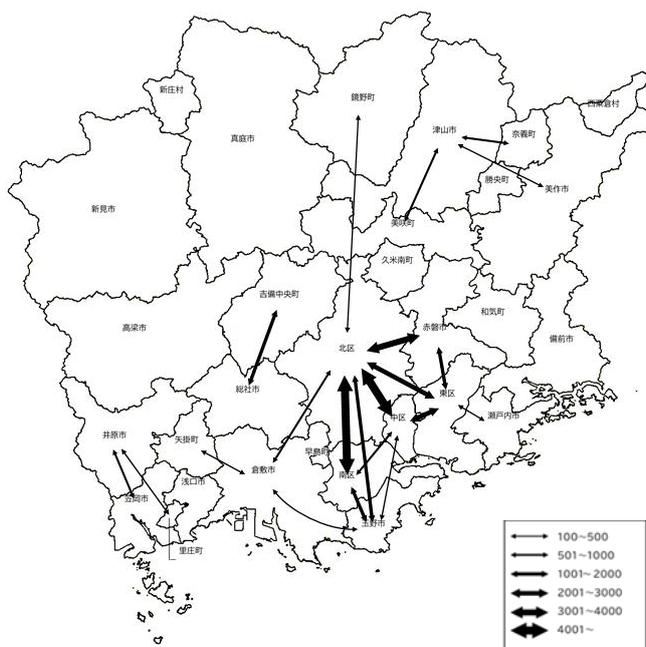
<休日>



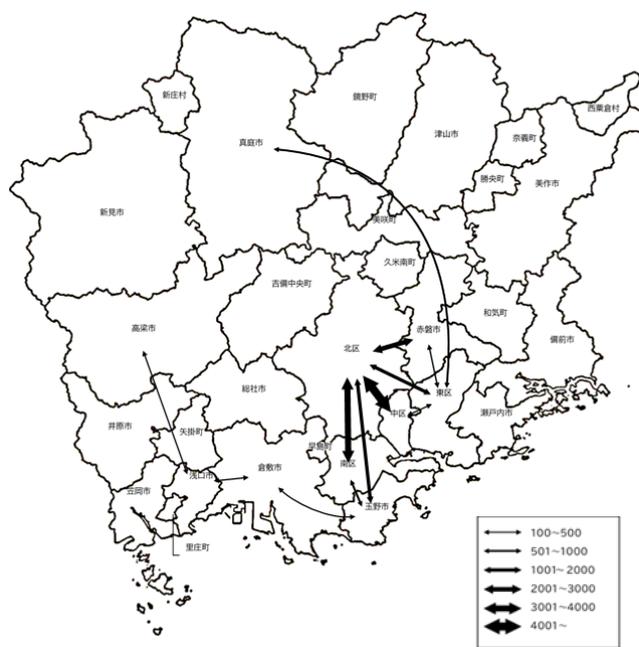
③路線バス（100トリップ以上の流動）

- ・ 鉄道に比べると、全体的に流動は少ないが、岡山市北区－赤磐市間ではバスが鉄道の流動量を上回っており、岡山市北区－南区间、岡山市北区－中区间でも鉄道と同程度の流動が見られる。
- ・ ほとんどが隣接する市区町間での流動となっている。
- ・ 休日は岡山市北区－中区间を除き、平日よりも流動が少なくなっている。

<平日>



<休日>



3 今後の取組予定

(1) さらなる分析

- ・ 今後、専門業者への委託も行いながら、データをさらに分析し、県民の移動ニーズと現在の公共交通体系のミスマッチを洗い出す。

(2) データの活用

- ・ 市町村や公共交通事業者へフィードバックし、公共交通体系の具体的な改善につなげる。
- ・ わかりやすく公表し、公共交通の現状についての県民理解を深める。
- ・ 一定の要件の下で研究機関などへ提供し、幅広い活用を図る。